



科学の眼

まなこ

発行:姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3961)
<https://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

巣作りから子育てまで

コゲラの繁殖記録

Breeding records of Japanese Pygmy Woodpecker

姫路科学館 専門員 森田 俊司

姫路科学館正面入り口付近にあるハンノキの枯れ木に2020年の春、コゲラが巣作りを始めました。人目につきやすい場所で巣作りをするのは珍しいため、慎重に観察を続けました。キツツキの仲間は木をつついて巣穴を掘り、その中でヒナを育てます。巣は地上約6メートルの位置にあり、北向きに作られていました。ふ化したコゲラのヒナは順調に育っているようでしたが、巣立ち前に巣が破壊されました。



写真1 巣作りをするコゲラ

巣を襲ったのは近くにすむハシブトガラスです。日常的に飛来し、巣の様子を観察していたので、おそらく巣の中のヒナが成長するのを待っていたのでしょう。またその日は休館しており、人の出入りのないタイミングを見計らっていたようです。破壊状況から見て、カラスは巣の真上に位置する二股の枝に止まり、首を伸ばしてくちばしで巣の周辺を壊し、丸裸にした状態で中にいたヒナたちを捕食したものと推測できます。自然の営みの中では日常の出来事でしょうが、もう少しで巣立ちをしていたのではないかと思えば残念でなりません。

カラスがヒナを襲う例は多く、巣の中にいるツバメのヒナを捕食する場面やカワラヒワの若鳥を空中で捕食する場面を目撃したことがあります。また同時期に別の場所でコゲラの親子を観察しました。親の後ろを3羽の若鳥がついて、食べ物をねだっていました。コゲラは親が子の面倒をみる期間が長く、数か月を要します。科学館周辺では1年を通してコゲラを観察できます。この春は元気な若鳥の姿が見られることを期待しています。

■コゲラの行動記録

2020年	コゲラの行動	巣作り開始からの日数
3月19日	巣作りを始める。 ※オスとメスが交代で行う。	1日目
3月31日	巣の内部の拡張に取り掛かる。穴から顔を出して、木くずを捨てる行動が頻繁に見られる。	13日目
4月4日	抱卵を始める。	17日目
4月20日	巣の中のヒナに食べ物を運ぶ。	33日目
5月4日※	巣が破壊され内部にヒナがないのを確認。	47日目
5月8日	巣のあった木が強風で倒壊。回収する（11日）	

※5月2日、3日は観察していないので、巣が襲われた日は不明。

■回収した巣の状態

内部の長さ 約 19 cm

内部の直径 約 5.5 cm（上部）～約 6 cm（下部）

表皮までの厚さ 1～1.5 cm

- ・内部は均一に丁寧に開けられている。
- ・枯れ木のため非常に柔らかく削りやすい状態。
- ・ヒナのフン跡は見当たらなかった。

■コゲラ

- ・全長 15 cm（日本最小のキツツキ）
- ・留鳥（年中、科学館周辺で見られる）
- ・「ギィー」と鳴く。



写真2 内部に入り木くずを吐き出す（3/31）



写真3 ヒナに食べ物を運ぶ（4/20）



写真4 破壊された巣。表皮がはがされている（5/4）



写真5 回収した巣（5/11）

姫路科学館の2階常設展示室にコゲラの巣の標本があります。ぜひご覧ください。